

- ◇昭和40年10月18日 丹羽春喜助教授は、世界政治国際会議への出席を終え、帰学した。
 - ◇11月1, 2, 3日の関西学院記念祭にあたり、社会学部学生が主体となり、教職員もこれに協力して、初めてのこころみの社会学部祭を開催し、学生の研究発表、講演会、映画会、記念論文募集などを行なった。
 - ◇11月3日 竹内愛二教授は、社会福祉学および社会事業教育、指導につくした功績により、兵庫県文化賞を受賞した。
 - ◇11月10日 学部研究会 発表者 牧正英助教授「アメリカの中小企業」、遠藤愼一講師「労使関係論の問題点」
 - ◇12月15日 学部研究会 発表者 鈴木信五郎教授「アメリカにおける広告評議会の成立とその意義」、田中国夫教授「ゼミナールの運営をめぐる——集団指導の側面から——」
 - ◇12月24日 領家穰教授は、学院外国留学規定により、約3ヶ月の予定で研究調査のため、ヨーロッパへ出発
 - ◇昭和41年1月24日 3月末で定年退職される竹内愛二教授の「社会福祉学原論」の最終講義が行なわれた。
 - ◇1月25日 3月末で退職、帰米されるS. M. ヒルバーン教授の「社会史」の最終講義が行なわれた。
 - ◇1月26日 学部研究会 発表者 本岡五男助教授「ムシル『特性のない男』の特性」、藤井康雄氏「歌舞伎の享受について」
 - ◇3月15日 領家穰教授外国留学を終え帰学
 - ◇3月31日 竹内愛二教授定年のため退職、S. M. ヒルバーン教授帰米のため退職、宇賀博助手神戸学院大学助教授に就任のため退職、六車進子助手神戸学院大学専任講師に就任のため退職
S. M. ヒルバーン教授には本大学より名誉教授の称号が授与されることになった。
- 会員の新著
- 丹羽春喜助教授 T. W. ハチスン著「経済政策の目的」(英訳)東洋経済新社、昭和40年11月。アブラム・バーグソン著「ソヴィエトの国民所得1928—55」(共訳)慶応通信社、昭和40年11月。「ソ連計画経済の研究」(関西学院大学研究叢書第23篇)東洋経済新報社、昭和41年2月
- 竹内愛二教授「実践福祉社会学」弘文堂、3月

◇国際家族研究セミナー

第9回大会が昭和40年9月13日より21日まで日本都市センターで開催された。第1分科会は「異なる家族パターンにおけるしつけについて」、第2分科会は「経済的発達における家族と親族との関係について」、全体会議は「上記の問題の比較研究に用いられる方法、技術について」、をテーマとしてシンポジウムが行なわれた。本学部からは光吉利之講師が出席した。

◇村落社会研究会

第13回 村落社会研究大会が、10月5, 6日の両日山梨県身延山端場之坊にて行なわれた。自由課題の発表者4名、共同課題「むら」の解体については4名の発表者があり、その内の1名として余田学部長が「山村の構造—丹波山村の場合」を発表した。活発な共同討議があり、また九州大学の中村正夫教授によって「対馬村落の現状」が(16mmフィルム)映写された。

◇日本時事英語学会

昭和40年10月8, 9日の両日、広島大学で第7回全国年次大会が開かれ、本学部から西尾教授が出席、総会の議長をつとめた。

◇日本社会学会

第38回大会は、昭和40年10月9, 10日の両日、東北大学で行なわれた。人口、産業・労働(1)(2)、マス・コミュニケーション、社会心理・教育、家族(1)(2)、基礎理論、農村・漁村、社会病理、学史、集団・組織・リーダーシップ、都市、産業と地域社会、社会病理・社会福祉に分かれて研究発表が行なわれ、万成教授、牧助教授、光吉講師が発表した。シンポジウム「戦後日本社会学の総括と展望」、総合調査報告「地域社会の変化」も行なわれた。本学部からは、多数参加した。

◇日本臨床心理学会

第1回大会が、昭和40年10月30, 31日の両日、京都女子大学において開催され、武田建助教授が出席、「臨床心理学的診断のあり方」と題するシンポジウムの司会をした。

◇日本新聞学会

1965年度秋季研究発表会および総会は、11月13日、立教大学において開催された。ここ数年の傾向として、放送に関する研究発表が比較的目立つが、マス・コミ研究の全般を通じて、なお方法論上の仮説を模索しつつある段階といえよう。本学部からは、藤原教授、津金沢助手が出席した。

◇日本基督教社会福祉学会

昭和40年11月19日、熊本慈愛園で行なわれ、本学の竹内愛二教授が座長をつとめ、大学院学生荻野源吾が資料を提供した。

◇日本社会福祉学会

昭和40年11月21、22日の両日、熊本短期大学において開催され、本学の竹内愛二、嶋田津矢子、L. B. グレアムの諸教授がそれぞれの部会で座長をつとめ、武田建助教授が「グループワーク集団内の対人知覚」について論文発表をした。また大学院学生の荻野源吾が「community development 諸活動におけるニードの知覚と分析」と題して太田義弘（北星学園大学）小田憲三（大阪女学院高校）高森敬久（日本生命済生会）の諸氏と共同発表をした。

◇日本経済社会学会

第1回大会が2月13日、神戸大学経済学部で開催され、小関藤一郎教授が「フランスの経営者の問題」と題して研究発表を行なった。本学部からは、大道、蔵内、小関教授、牧助教授が出席した。

執筆者紹介（掲載順）

竹内愛二	元社会学部教授 現社会学部講師
大道安次郎	社会学部教授
山中良知	社会学部教授
栃原知雄	社会学部教授
小関藤一郎	社会学部教授
万成博	社会学部教授
丹羽春喜	社会学部助教授
遠藤惣一	社会学部専任講師
杉山貞夫	社会学部助教授
宇賀博	元社会学部助手 現神戸学院大学助教授
関根秀和	元社会学部助手補 現大阪女学院高校教諭

1966年4月28日 印刷
1966年4月30日 発行

編集 発行人 余 田 博 通

印刷所 協和印刷株式会社
京都市右京区西院清水町20
電話京都 ㊦ 4010 ~ 4012

発行所 関西学院大学社会学部研究会
西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話西宮 ㊦ 0912 (代表)
㊦ 3512 (直通)